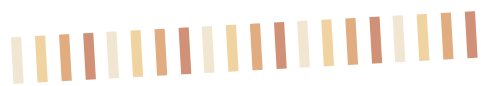


はじめよう!
楽しもう!
農業体験

第1章
教員向けマニュアル



食育と農業体験

「食育」というと、子どものために行うもの、と私たちは思いがちです。

しかし、平成17年に施行された「食育基本法」の前文にはこのように書いてあります。

国民一人一人が「食」について改めて意識を高め、自然の恩恵や「食」に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めつつ、「食」に関して信頼できる情報に基づく適切な判断を行う能力を身に付けること

食育は、子どもだけでなく、すべての国民に今こそ必要な取組です。子どもも大人も、児童・生徒も教員も、みんなが健やかに暮らすためには、生きる基本である「食」を大切にする心が必要です。まずはそのことを心に刻み、子どもたちと一緒に学ぶ姿勢を、教員自身ももつことが大切です。

食育の推進には、様々な方法があります

本書でくわしく紹介する農業体験は、食育を推進する方法の一つであり、体験そのものが目的になっては実施する意味がありません。一つの方法ではありますが、実際に見て触れて、味わって、多くの人と対話して、日々の食事にもつながっていることが実感できる貴重な機会です。食べ物を口に入れてみて、初めてその味が分かるように、食べ物が生まれる現場を体験して、私たちはその大切さを心から感じるすることができます。

学校教育に農業体験が取り入れられるようになってから、 まだそれほどの時間は経っていません

これまでも、学校教育においては理科では作物の「栽培」を、社会では農業という「職業」というように各教科等の指導の中で取り上げられてきましたが、農業や農村が都市に住む人々にとって遠い存在となり、多くの子どもたちにとって、食べ物をだれがどこで作っているのか、そこにどんな現実があるのかを知る機会は減少しています。農業体験は、そうした現状を改善するために、農業のもつすばらしい価値を伝えるために、近年特に広がってきました。

農業体験を行うには、様々な準備や用意が必要となります

受入農業者をはじめ、多くの人の理解と協力が不可欠で、通常の授業よりも多くの手間がかかる場合もあります。それでも、目的意識をもって、教員自らが主体となって実施して得るものは計り知れず、ぜひ「食わず嫌い」をせずに、多くの教員のみなさんに実行していただきたい取組です。本書は、これまでに様々な形で農業体験を実施してきた先輩のアドバイスや経験をもとに作成しました。これから農業体験に挑戦する教員、サポーターとして参加する方など、食育に携わる多くの方々に参考にいただければ幸いです。

アドバイスをいただいた方

佐々木 貴子さん 北海道教育大学札幌校 総合学習開発専攻 准教授（家庭科教育学）

釧路市生まれ。北海道教育大学卒業、兵庫教育大学大学院修士課程修了。千葉県内の中学校教員などを経て、2000年に北海道教育大学函館分校助教授、2006年から同大学札幌分校助教授（現准教授）に就任。専門分野は家庭科教育、食育、防災教育。2006年からJAグループ北海道と連携して開催する「稲作体験塾」では、教員を目指す学生に体験を通じて食や農業の大切さを知り、子どもたちに伝えてもらうことを目指している。

北海道教育大学 総合学習開発専攻

2009年度「稲作体験塾」のまとめ——実習に参加した学生の感想より一部抜粋

毎日何気なく食しているお米が多くの苦勞の末に作られていることを肌で感じることができました。農業が停滞している今だからこそ、子どもたちや若い人たちが農業に触れる機会が必要であると思ったし、このような機会から多くのことを学び、感じることができたのは自分だけではなかったと思うので、自分が教師になった際はぜひ、多くの子どもたちに自分が感じたことを農業体験などから伝えていきたいと思いました。

田んぼの中は意外とあたたかく、土が気持ちよかったです。機械での田植えも、少しハンドルをきるだけですぐ曲がってしまい操作が難しかったが、とても楽しかった。やはりこのような体験を通してお米の大切さ、すばらしさを知るのは重要なことだと思う。私たち大学生にとってももちろんであるが、小学生や中学生にとっても良い体験になるだろう。お米の大切さをこれからの子どもたちにきちんと理解してもらいたい。

田植えは初めてだったけれど、農家の方々のおかげでとても楽しく体験することができました。きっと子どもたちもこういった機会があれば、楽しみながら実感をもって食べ物大切さを学ぶことができると思います。子どもたちに教えるにはまず教員が農業について知っていかなくてはなりません。秋の稲刈りにもぜひ参加して、米ができていくまでの一連の流れを少しずつですが体験することで、農業について知るきっかけとし、今回学んだことを今後の学習に生かして知識を深めていきたいと思っています。

